

最新の成果からみた稲作の起源

科目コード	2678560
学習センター	宮崎学習センター
学習センターコード	45A
クラスコード	K
科目名	最新の成果からみた稲作の起源
科目区分	導入科目：人間と文化
ナンバリング	220
定員	20名
担当講師	ウダツ テツロウ 宇田津 徹朗 (宮崎大学 農学部教授／宮崎学習センター 客員教員)
日程 実施時間	2025年10月18日(土)第1時限 09:30～11:00 2025年10月18日(土)第2時限 11:10～12:40 2025年10月18日(土)第3時限 13:30～15:00 2025年10月18日(土)第4時限 15:10～16:40 2025年10月19日(日)第1時限 09:30～11:00 2025年10月19日(日)第2時限 11:10～12:40 2025年10月19日(日)第3時限 13:30～15:00 2025年10月19日(日)第4時限 15:10～15:55 2025年10月19日(日)試験・レポート等 15:55～16:40
実施会場	この授業は、【宮崎学習センター第1講義室】で行います。

授業概要

【授業内容】

この授業では、東アジアにおける稲作の歴史について、近年行われてきた国内外の調査研究やその最新の成果を紹介しながら、概説します。
また、メディアで報道される古代の農耕や環境に関する最新の科学データが、実際にどのような材料からどのような方法でもたらされているかを解説します。さらに、その方法の一つであるプラント・オパール分析法を実際にも実習していただき、「歴史を科学する」現場を体験してもらいます。

【到達目標】

東アジアの稲作技術の成立のメカニズムについて理解し、社会システムの発達過程(自給自足型社会から今日の都市型社会)における「食料生産システムとしての水田稲作技術の位置づけと役割を説明することができる。

【授業テーマ】

第1回農耕開始のメカニズムの最前線(人は何故、農耕を始めたのか?)
第2回稲作の始まり(起源)を探る(先人達の取組とその成果と問題点)
第3回新しい研究手法の登場とその成果(近年の国内外の調査の概要)
第4回稲作の発達と拡散(中国から日本への伝播)
第5回稲作の発達と環境の変化(農業生態系、都市の形成)
第6回歴史を科学する様々な方法(花粉分析、プラント・オパール分析、年代測定法など)
第7回プラント・オパール分析法の実習(遺跡土壌の分析)
第8回稲作史研究の課題とこれから

【学生へのメッセージ】

稲作の歴史は、日々の研究によって次々と新しいものに更新されています。「歴史を科学する」最前線の研究の現状と研究成果を学び、体験するとともに、稲作の発達と私たちの社会や環境との関係についても考えてみてください。

【受講前の準備学習等】

シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。また、授業で学修した内容などを活用して復習を行い、理解を深めてください。

【成績評価の方法】

成績評価は、授業中の学習状況及び試験の評点により行います。

【教科書】

授業当日にプリントを配付します。

【参考書】

・フィールド科学の入口 イネの歴史を探る (佐藤洋一郎、赤坂憲雄／玉川大学出版部／¥2,640／ISBN=9784472182013)
・稲の考古学(中村慎一) 同成社／¥2,970／ISBN=9784886212566
・農耕の起源を探る-イネの来た道-(宮本一夫／吉川弘文館／¥1,980／ISBN=9784642056762)

【その他(特記事項)】

この科目は2009～2015年度「共通科目」に該当します。